

がん情報サロンボード

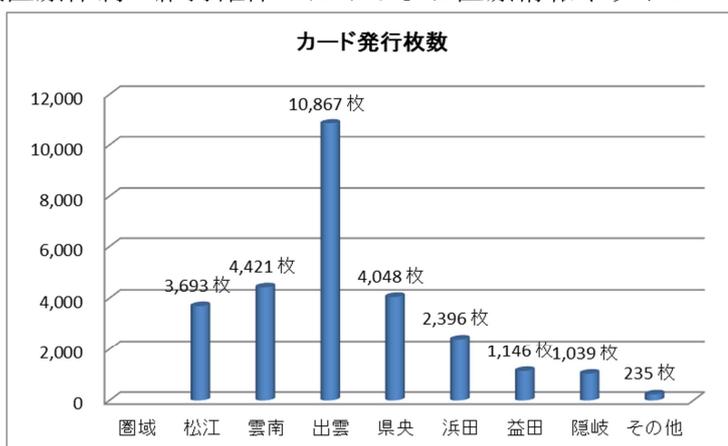
2016/08/01

がん情報サロン 富田 明人

島根のまめネット

島根県の人口の高齢化が進行し 65 歳以上の人口は、平成 27 年には全人口の 32.5% 占めるため、医療に対するニーズが大きくなっている。その一方で医師、専門医が出雲、松江地域に偏在しており、益田、浜田、大田、雲南、隠岐地域での医師不足が深刻な課題となっている。このような医師不足による医療水準の低下を改善するため、県は限られた医療資源を有効に活用し地域医療体制の維持確保のためしまね医療情報ネットワーク事業（まめネット）を開始した。県はネットワークの基盤を整備し、運用は NPO 法人しまね医療情報ネットワーク協会が担い平成 25 年 1 月から運用を開始した。

カード発行枚数は（H28.5 月実績）27,845 枚であるが、地域格差があり県東部の松江、雲南、出雲地域で 68%を占める。



参加医療機関総数は、768 施設（H28.5 月）地域別にみると出雲、松江、雲南地区が多く県東部に集中している。

業種別 では介護施設 317、診療所 283、病院 42 となっている。

加入数の多いのは出雲地域で、特に介護施設の登録が 215 件と突出している特色がみられる。（表一1）

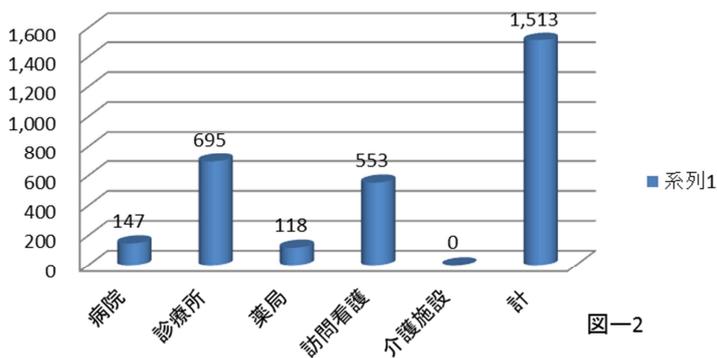
このことから出雲地域では、介護保険者が保有する認定情報を居宅介護支援事業所等に提供する「認定情報提供サービス」、居宅介護支援事業者と介護サービス事業者間の「ケアプラン交換サービス」等医療機関と介護施設で在宅ケアが必要な患者の情報を共有する「在宅ケア情報共有サービス」をまめネットの活用で質の高い在宅ケア支援サービスが行なわれている。

参加医療機関数 (H28.5月実績)

圏域	病院	診療所	薬局	訪問看護	介護施設	その他	計
松江	12	79	16	9	36	7	159
雲南	4	20	9	4	39	1	77
出雲	9	103	27	14	215	11	379
県央	3	27	3	3	5	0	41
浜田	7	37	8	5	22	4	83
益田	5	7	2	1	0	0	15
隠岐	2	10	2	0	0	0	14
計	42	283	67	36	317	23	768

表一 資料：島根県医療政策課

カルテ利用件数 (H28年5月実績)



図一2

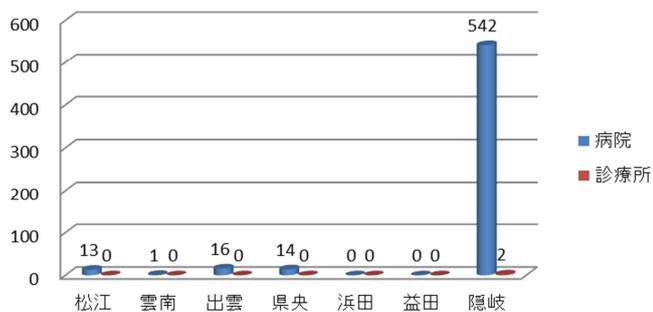
まめネットの主な活用状況では、連携カルテの利用件数の総数は1513件で診療所、訪問看護、病院、薬局の順で登録数の多かった。(図一2)

紹介状の送・受信状況は、出雲、松江、隠岐での使用が多く、特に出雲では病院、診療所間の連携は進んでいる。

その他の地域での「まめネット」の活用は広まっていない。(表一2)

画像利用の件数は588件でその内大半を占める隠岐病院の利用件数が542件と多い。その他の地域では利用件数は伸びていない。離島と言う特殊な条件が関与していると思われる。画像送信用のサーバーの設置も42病院中18病院で整備率は42.9%である。

画像利用件数 H28/8月



紹介状の送、受信状況

圏域	病院(送)	病院(受)	診療所(送)	診療所(受)
松江	5	176	152	7
雲南	1	5	0	8
出雲	464	293	302	435
県央	12	15	13	22
浜田	0	27	25	1
益田	0	0	0	1
隠岐	32	28	23	11
計	514	544	515	485

表一2

今後の課題としては、まめネットの県民への広報活動を強化し認知度を高め地域格差も改善していく施策が必要であろう。

情報提供病院の連携カルテの出力項目の内容の検討も必要である。現在多くの病院が公表しているコンテンツは、患者の属性（アレルギー、病名）等の情報等に限られ、患者に有用な情報である看護記録、入院時サマリ、退院時サマリ、外来サマリ等のコンテンツの記載が欠落している。

今後、各病院においても提供するカルテ情報の拡大について前向きに検討していくことが必要と思われる。

診療医の中には、まめネットの必要性を認めない医師も存在する。魅力あるサービスの提供を期待したい。

(富田)